

「馬の日」を小田原城に おもひにきてね。

<http://www2.famille.ne.jp/~luna/horse/idx.htm>

より、小田原城跡、三
の丸広場に月に一回
自然・馬・人の会のと
りくみが、そろそろ四
年目を迎えます。

最初は、ただ馬と戯
れるだけでよかつたの
に、「会を重ねる」とい
ふ人が集まつて来るのは、
小田原城には、こんな

にも馬が似合い、この
町にしか出来ない素敵
な試みだからじやない
かと・・・再認識。

この足柄平野でも大
黄馬は田畠を耕し、
遠くへ行く時の足代わ
りに、そして戦へ。や
がて動力機械に人間の
興味は移り、馬はいつ
しか忘れられて.....。

その馬が今、再び小
田原城にやつてきて、

土岐・運・来

小田原市の「好意に

確かに人と人をつなぎ始めたのです。ただの

「自然・馬・人の会」に参加して.....。

田中 真さん

イベントではない、継続性のある集まりに、
人は安らぎをおぼえ、集つていくる中からまた

新しい広がりも生まれ.....。怖かつたはずの

馬なのに、つきあい方をおぼえていくうちに
自分が喜ばれていくことに気付く。馬
に乗れるようになります。今度は、「乗つた」

とがない人を乗せてあげたい。小さい子ども大

人もおじいちゃんもおばあちゃんも。そして
小田原城を整備してみたい、季節の花を、自
然を、歴史をかんじながら.....。と夢は広が

ります。

夢の実現にはたくさんの準備が必要です。
でも、その準備を楽しむことは、やさしいま
ちをつくつしていくことにつながると信じてい
ます。皆さん応援を.....。

私との出会いは、ほんの偶然の出来事でした。インターネットで仕事の恩恵き
にと、ネットサーフィンを楽しんでいた間に、

なにげなくたどりついてしまつたのが当芸能
ホームページだったのです。

それまで、アニマルセラピーだとか、身障
者乗馬というのがあることは知つてはいま
たが、別段深い興味もなく、まるか自分が足
を突つ込もうとは、夢にも思いませんでした。
ただ、私も小田原市内在住ですが、そのよう
な活動が「こんなにも身近で行われている」と
に、多少驚きを覚えたものです。しかし、そ
れよりも目を引いたのは、「ボランティアの方にも乗つていただきます」というコピーで
した。

「なにな」.....。ボランティアは参加費は無
料だから.....、「そつか!」

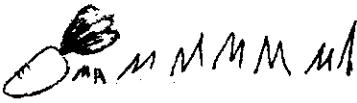
不純と言えば、確かにそうかもしれません
が、それでも「馬」と書けば高嶺の花です。
ここがれながらも諒めるしかなかつた。しが
ないサラリーマンとしましてはやはり、「タ
ダで馬に乗れる」なんて、.....。(二面へ続く)

会報 「土岐・運・来」 第十号
発行 自然・馬・人の会
発行日 二〇〇〇年三月一日
ただいまの会員数 八一家族





2月13日 乗馬研修会



今日は、いつもの乗馬会の代わりに、乗馬研修会を企画、乗馬サポートの実践と、そのおさらいをしました。今回はただの講習会（会員の子たちの笑顔はナシ！）のはずなのに、30人程も集まり、知らない者同志のイヤな緊張感なんですが薄れ、皆、研究熱心、新しい発見も沢山、みのりの多い会となりました。地元、小田原のメンバーが増えつつあり、年令層も幅がてきて、これは楽しくなるぞーと、うれしい予感でいっぱいでした。きっとこれからも、自然・馬・人の会を楽しく ▲ してくれる 面々の真剣な 意見交換の場をちょっとのぞいてみましょう。

触れる？



小澤としゆき君「自分がモデルになった時怖かったので、これからやる時は乗る人を心配させないようにしたい。」(南足柄・高校生)

齊藤さん「以前初めて参加したときに、何もわからないのにすぐ“サイドウォーカーに付いて”と言われてすごく不安だったんです。それで、ボランティアから遠のいてしまう部分もあったんです。今日で、やり方がよく分かってすっきりしました。」(酒匂・働く主婦)

芹澤君「馬に触れて楽しかった、この会はみんながいい人で来やすかったです。馬を初めて引いて勉強になりました。」(御殿場・高校生)

「僕もアリーナのボランティアをしている時に初めて知ってそれからはまってます。最初は馬に触った時ほこりがたって汚いなあ位にしか思ってなかったけど、今はとってもかわいいです。」(荻窪・高校生)

どんなものかと今回参加しました。“お父さんも絶対、力の入らない子があんなに重いとは知らなかつた。しっかり支えてやり、安心できなければ、乗ること自体が今日は子どもをおいてきたお父さん）

「あったので、もっと勉強したいです。」(中村原・保育士)

した。」(柏山・高校生)

竹村さん「自分が馬から下りる時、娘（萌ちゃん）と同じ下り方をしていることに気付き、娘のやり方は、私から来ているのかと…。うれしい変化は、萌がカレンダーを気にするようになったことです。乗馬会の日を、最初は“バカバカは？”と言っていたのが今は“お馬は？”と言って楽しみにしています。」(下大井・運営委)
中村さん「はいっ！えー、私が、学校でめぐちゃんの担任をしております。乗馬会の日用に馬のシールなんかも用意したりします。」(柏山・運営委)

久保田じゅんこさん「萌ちゃんは最初、待てなかつたのに今は馬に乗っていない時も周りを見て次ぎは自分だつて思えるようになったんですよねえ。」
(柏山・福祉関係を飛び回っている人)

石坂康太君「いつもは乗っている側なので、乗せるのは初めてでした。身体障害の人とふれあえて良かったです。」(寄・中学生)

秋保もぐたん「小さい頃、乗馬していたのが、ここへ来るようになって復活！今日のビデオは二回目だけど、初めての時とは、また違つた。」(横浜・ジャスコレディ)

(一面より続く) ウマい話はそうそあるものではないのですよ! ましてや、運動不足の解消に何かないかと、気にしていましたが、【カシコヨク】で「タダ」で「運動不足が解消」できる。「うなれば、もうやるつきはありません。そんな情けない動機で覗いて見たのが運のつき。気がついたら、訳もわからず、「こんな手記まで書いています、ハイ。」「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、まさにその言葉どおり。遠目に見て「カツ」「イイー」と、それだけだった馬も近くで接するとい、肌の温もり、優しい目、敏感な耳、やっぱり生き物なんだなあ……、と改めて感させられました。また、乗馬会のスタッフも初参加で知り合いの一人もいなかつた私に、みんな古くからの友人のように声をかけてくれました。そして、一ヶ月間、心待ちにしてやつてくる会員さんの嬉しそうな顔、顔、顔。それまで、あまり関心を払わなかつた私ですが、どうやら、思い違いをしていました事を認めざるを得ないようでした。まさに、「百聞は一見にしかず」。

「タダで馬に……」から出発したものの、一度二度と参加するうちに、「これなり自分の子供も乗せてやろう」と思い、さらに「どうせ乗るなら、もつと上手くなりたい……」と、欲は膨らむばかり。気がつけば、サドルバックの馬場で、馬を走らせていました。そんなこんなで、すっかり馬にはまつて……ではなく、馬になつてしまつた私の以下の

「カツ」「イイー」と、それだけだった馬も近くで接するとい、肌の温もり、優しい目、敏

感想を何度も耳にした。馬に乗ることも樂しかつたが、その後の交流会がとても良かつたことだ。まだ、速歩(はやあし)しか出来ませんが、今後もみつかり練習すれば、いくら運動オーナーの私でも、五年はからずにもつと自由に乗りこなせるようになるでしょう、多分……。そして、その頃には、どれだけの新たな友達の輪が出来ているかと思うと、それだけで、なんだかウキウキしてきます。

白馬のオジサマ(?) 目指して、明日もがんばろう……!

乗馬会から

十一月十一日の乗馬会から

参加人數	会員
四六名	当日受付
三三名	ボランティア

今回は、いつも手伝ってくれている、さがみ信金の人達が忙しくて参加できないと連絡が入った。ボランティアが少なく、手一杯だった。改めて、さがみ信金の方達が参加して下さる有り難さを再確認した。

今回は、交流会(十一月に開催)後の最初の乗馬会であった。お子さんが馬に乗つている間に、付添の方同士が話している姿をいつより多く目にした。

私が付添の方々に挨拶に行くと、「十一月の交流会があつて、とても良かった」と言っていた。

感想を何度も耳にした。馬に乗ることも樂しかつたが、その後の交流会がとても良かつたと言われた。運営者側や参加者の思いがよくわかり、声がかけやすくなつたという。また、九月に続き「翔の会」の方が参加された。翔の会は希望者が多いので、乗りたい人が順番に来て下さっているようだ。大人で背が高い上に、恐怖感が大きかつたり、安定性が弱く、サポートをするのが難しい。このような方達を、どのようにしたら、安全に楽しくお乗せできるのか。上馬下馬は、どのようにしたら、乗せる人の負担にならず、乗る人の無理がなくできるのだろうか。と皆で知恵を絞る。

下馬の時には、サイドウォーカーが担ぎ下ろさず、上体を一度仰向けに後ろに倒した後、足を下りる側に回す。その後、体を鞍の上で回転させ、うつぶせにする。それから、鞍(ぐら)を滑るように下ろし、ゆっくり着地させる。このやり方が、一番いいのではないかと一応の結論を出してみる。

体重が重い方をサポートするのは、かなり慣れていないと難しく。サポートする側が、無理をする時は、される側にも不安が起きる。お互が力まず、安全な方法を探つていきたい。もう一つの問題は、車椅子に長く乗つている人は、お尻の肉が瘦せてきて、馬の振動によつてお尻が痛くなることである。これは、専用のパッドを作ることにした。いつも東京から交通費も弁当も自前で参加してくれ、

我々スタッフのアドバイザー役をしてくれて
いるがランティアのヤギさんのお手製だ。

これまでにも、ペトン、鎧（あぶみ）の力

バー（つくしに付けてある）、色の違う手綱などを作ってくれた。子供達に人気のアヒルのヘルメットだつて、彼が見つけてきた優れた物だ。お陰で、ヘルメットをかぶるのが苦手だった子も喜んでかかるようになった。

その他、常連のボブ・アンティアの中に、堀玉から参加してくれているリン・リンとラン・ランがいる。この双子の姉妹を見分けられる人は、

第十屆

交通費弁当目前で参加してくれ、頭が下がる。
そして、この三人の仕事や馬の仲間が、横浜
や東京から参加してくれる。

「自然・馬・人の会」を発足させた時、「ボランティア団体にするのは止めよう。障害が

「あつてもなくとも、馬を中心にして一緒に樂しませんか？』と語り合つた。

今、会員数が八十家族を越えた。少しずつ、「何か手伝えることはありますか? 子供が乗っている時間だけですけど」と声をかけてくれる会員さんが増えてきた。

親子で、食事の手伝いをしてくれた中山さん、野沢さん。写真を撮つてくれた小西さん。

引き馬を手伝ってくれた大竹さん等々。
その時々でできることをやってくれる人が
少しずつ出てきた。お金を払って利用するだ

けではなく、自分たちが会を育てていくんだ
という人が増えてきたのがすごくうれしい。

更に、大人顔負けで元気に馬装をしている

「人の小学生（千夏さん、愛子さん）。十一月から参加している高校生四人（田中さん、芹澤さん、山橋さん、小澤さん）地元の若者も頼もしい。今まで、東京や埼玉の助つ人がいないと乗馬会が成立しなかつた。これからは、「たまには休んでも大丈夫よ」と言える日が来るのもそう遠いことではないかもしない。

「くなるぞ」という声に励まされました。また携帯カイロや心のこもった熱いお茶やコーヒーを一も参加した人を暖めていきました。

一月という事で、もともと事前申し込みの騎乗者が少なかつたのと、体調を崩した人のキャンセルもあって、参加したボランティア全員が馬に乗る事ができ、初乗りを楽しめました。

この日やつて来た馬は、いつものくじら、ハスキー、ミルキー、オーレに加えて高橋さんの牧場で一番大きい「ナンナ」も場所慣らしでした。

うれしいお知らせ

四月以降の乗馬会の会場使用について、多くの会員の皆様にお手紙で要望していただき、本当にありがとうございました。おかげさまで、小田原市から会場使用の継続許可をいただきました。

次に予定で乗馬会を行います。また来年度みなさんとお会いできるのが楽しみです。

この日は、この会が参加する人全員の楽しめる場になる予感のできる一日でした。

〔桜井〕

四月九日

万葉は、長い空で、少し寒いくらいでしたか
ヤギさんの「サイドウォーカーをやれば暖か

一月十六日の乗馬会より
参加人数 会員 四八名

関野さん「実技の時間がもう少し長くてもよかったです。めぐちゃんの鞍に座る位置が、後ろすぎたんじゃないかなあ。」（中井町・運営委員会）

田所ヤギさん「めぐちゃんがというより、鞍があわないということもある。そんな時後ろにタオルをあてたりというような工夫をみんさんが口に出し合うことが大切だね。乗っている人の負担にならないように、ガチッと固まらせてしまうより馬の擺れにあ支え方の工夫もビデオにあったね。でもだからといって、これが正解！っていうのはない、馬も人もそれぞれ違うんだ他の色んな会に参加してみるのもいいと思うよ。」（渋谷・平日は横浜のお役人・休日は馬の遊び人）

桜井ゴリさん「山梨の紅葉台牧場でボランティア交流をしようという計画があったのでみんなに是非参加して欲しいなあ。」

（自然・馬・人の会代表・いつもは父・ときどきゆーひん屋）

田中真さん「この会のホームページを見て、前から馬に興味はあったけど所詮ピンボ一人には繋がないと思っていたのが、ただで馬がしかも地元じゃないか！と興味を持ったのがはじまりなんです。今日やってみて、両サイドで支える人の連携がとても大切で今までそれが出来ていないことで乗り手に不安を与えていたな、と実感しました。」（鷺宮・平日は車で仕事人・

休日は自転車でお父さん）

山梨愛子ちゃん「私もモデルをやってわかったんだけど、両サイドの人が同じ位の背の高さじゃないとバランスがとれないと思った。あと、馬に乗せてもらうなら、タイミングのいい人に乗せてもらいたいと思った。」（中町・小学生）

村山ますみさん「これまで同じ職業以外の人とふれあうことがなかったのに、この会に関わるようになって、世界が広がりました。地元の高校生の参加がうれしい！」（柏山・ニコニコ教師）

北村さん「私は一番古いボランティアなんですが（笑）、講習会を開くのは初めてでえ（！！）、やってよかったです。」（湯河原・

八重樫リンリン「普段は乗馬会の前に朝の講習会をやっているけど、今回のようにみっちりやることは貴重で、もっとこういう機会があるといいなと思いました。」（川口・謎の双子②）

八重樫ランラン「こどもたちが呼びやすいので、学生の時からこの名前で呼ばれます！初めてボランティアに参加した人にとって、一気にたくさんのことを覚えなくちゃいけない、それはとっても大変なことを強いている、ということをこちら側が認識したほうがいいと思います。この会は、初めての人をいかにつなぎ止めるかがカギなので、・・」（川口・謎の双子）

山崎さん「馬の方はお若い方達に任せて、私の方は受付でなるべくこどもたちに声をかけていきたいです。昼休みには、かってに本の読み聞かせなんかもやっていますが、ご要望などあったら言ってくださいね。」（小田原・見守る母）

木下まよべえ「今まで、初めて来る人もどんどん中に入つてやつてもらうことがいいと思っていたけれど、そのやり方ではかえって不安を募らせていたと言うことが、今日、皆さんの気持ちが聞けてわかりました。」（二宮・運営委員会）

田中ぶーさん

横本くらげ「今日はインストラクターをやって、その子にわかる指示をだせるようになりたいと痛感しました。」

（開成・運営委員会）

野坂哲也さん「こどもが毎回あんまり楽しそうにしているので、手綱の持ち方をおぼえてやるぞ」と思っています。自分がモデルになった時とても怖く、乗る時にストレスになつてしまふと感じました。」（山北・

橋川きつちゃん「ボランティアを始めて一年たつたけどわからないままやつていて、言おうかなあと思っても躊躇して言わないことも

山橋えりかさん「前に小田原アリーナでやつた時初めてだったのですが、今日のビデオで、障害のある人を馬の乗せる意味がわかりました。」

中村さん「今日は講習会をやつたて本当によかったです。これからもやつていきたいので、よろしくお願ひします。皆さん、ボランティアは助ける人、会員は助けられる人じやなくて、乗馬を楽しむ仲間として来てくださつているんだなあと、今日の会で思いました。会員の方もボランティアをして下さる方が増えていますが、ボランティアの方も会員になつていただいて、いっしょに楽しめたらと考えています。」（なぜか、締めるのは、いつも私なのよねえ、何か他にありませんか？）

自然・馬・人の会つて？

——「んな会です——

をわたしたちと一緒に体験してみませんか。

回をお届けします。

□) 家族体験乗馬無料券を乗馬会に
参加された時一枚差し上げます。

☆乗馬会

・毎月一回

小田原城址公園内歴史見聞館東側にて
・事前受付：個人プログラムに合わせ仲間と
共に練習して乗馬を楽しみます。

騎乗料……1000円
・当日受付：乗馬が初めての方でも体験でき
るコーナー。

2周引き馬料……500円

☆小田原市への働きかけ
平成子どもの森公園（仮称）の運営計画
に要望を出します。

☆出張乗馬の応援
サドルバックの馬が、他乗馬会、幼稚園
のポニー教室に出向く時、会報でお知ら
せし、協力していきます。

☆協賛会員
この会を運営、進行していく為に月一回
程度、話し合いを持ちます。

□協賛金：1口1000円（会の運
営費、馬具の購入などに使わさせ
て頂きます）

☆お問い合わせ
〒250-10045
小田原市城山一-三-二二
自然・馬・人の会代表 桜井 広利
TEL ○四六五-三二一-一三〇八
FAX ○四六五-三二一-一三三二
★年会費・協賛金などの振込先
便振替口座〇〇一七〇一四一七九九四四

第十号 来・運・連・岐・土

馬がいる。子供がいて、おばあさん、おじいさんがいる。車椅子で米た人が背筋を伸ばして馬に乗っている。仲間とやつて来てサイドウォーカーをやつている若者が声をかけている。馬が駆け出すと歓声があがる。笑顔が広がる。補装具を足についた子が、ここで出会った友だちとボール遊びをしている。取りそなつて転がったボールと一緒に来たお父さんお母さんがあわてて取りに行く。豚汁のみその香りが、ぷーんとただよう。昼食を囲むテーブルの向こうで、アサラト、カリンバなどの楽器を鳴らして遊んでいる人たちがいる。本を読んでくれる人のまわりで子供が一心に耳を傾ける。

これが小田原の乗馬会の風景です。乗馬会には誰もが参加できます。誰もが同じ場所でお互いに関わりを持ったり持たなかつたりしながら、それでも目のすみにそれぞれを感じながら、それぞれの豊かな時を過ごしている。そして参加する人はみんなそれなりに楽しんでいます。そのこと——みんな一緒にいることです。そして、みんな一緒ということからどんな発想や出来事が生まれてくるのか、とても楽しみです。本当にこれから何かが動き出していきそうな気がします。あなたもそれ

小田原で、もっとと身近にもっとと楽しく自然と馬とがあれあい、集えるように広く仲間を募集しています。一緒に楽しみませんか？

——「んなメンバー——

資金で構成しています

〒250-10045
小田原市城山一-三-二二
自然・馬・人の会代表 桜井 広利
TEL ○四六五-三二一-一三〇八
FAX ○四六五-三二一-一三三二
★年会費・協賛金などの振込先
便振替口座〇〇一七〇一四一七九九四四

☆会員・家族単位で年会費二六〇〇円
(4月切り替え) 会費は通信費・事務費・
印刷費等に使われます

□会報(年四回)・乗馬会日程(毎